

平成25年度 広報広聴委員会行政視察報告

はじめに、

当委員会は、平成23年5月から市議会広報広聴委員会に名称を改め、「市議会だより」、「市議会ホームページ」、「議会タウンミーティング」のさらなる充実を図り、昨年11月定例会から開始した「インターネット中継」、さらには本年5月から導入した「会議録検索システム」等により、議会改革そして開かれた議会を目指し、広報広聴活動に取り組んでおります。

そのためには、継続的な取り組みが必要であり、また、当委員会の活動の充実を図るために先進地への行政視察を実施しましたので、以下のとおり報告いたします。

視察日	平成25年8月20日（火）～平成25年8月21日（水）
視察先	埼玉県さいたま市（20日）、東京都多摩市（21日）
視察委員	藤枝市議会広報広聴委員会委員5名 小林 和彦委員長、石井 通春副委員長、天野 正孝委員、 杉山 猛志 委員、遠藤 孝 委員
調査事項	議会の広報広聴活動について（詳細後述）

【埼玉県さいたま市】

「議会広報編集委員会」は広報紙の編集及び発行をはじめ、テレビ広報番組の放映内容、議会のホームページに関する事等について協議を行う。

委員定数11人 委員長は議長、副委員長は副議長が務める。議長の指名する各会派から選出された議員で構成される。

事務局の体制は秘書課広報係（3人）置かれている。

[視察事項]

①「市議会だより」における工夫、改善経過について

表紙のタイトルは「市議会だよりさいたま」ではなく、愛称「ロクマル」の名で発行している。民間企業の持つノウハウや技術を、効率的かつ最大限に活用し、見やすく・わかりやすく・親しみやすい紙面づくりを行うため、「企画編集業務」を外委託している。

委託料 17,919,300円（H25年度）

発行部数 552,000部（H25.8.1号）

仕様 A4版12ページフルカラー

発行回数 年4回発行 改選により臨時会が開催された時は、臨時会号を発行

配布方法 委託業者によるポスティング 5.4円/部

読者層を広げるために、難解な内容をわかりやすく伝え、議会をもっと身近に感じてもらう紙面を作成している。

（具体的な取り組み）

- ・第一印象で手に取りたくなる表紙
- ・「ロクヨン」という愛称の採用
- ・わかりやすい文章にする
- ・とっつきやすい見出しに

・短時間で読みきれぬ量（ポイントをしぼった文章で余白を増やし、読み手の負担感を減らす）

- ・詳細情報はホームページに掲載
- ・代表質問・一般質問（合計 20～26 問程度）を要約し、「ダイジェスト」として掲載。議員の顔写真は掲載しない。

このような取り組みの結果、平成 23 年 12 月に「PR アワードグランプリ」において、「全国の市議会が、どのように広報すべきか試行錯誤をしている中で、新しい議会広報の形を示した点」が評価され、グランプリを受賞した。



視察の様子

②議会テレビ広報番組導入の経緯と成果について（編集方法、内容、経費、成果等）

テレビ広報番組「ようこそさいたま市議会へ」（テレビ埼玉）

平成 14 年 10 月から開始。テレビ埼玉の放映後、市議会ホームページで映像配信

広報番組制作及び放映委託料 4,914,000 円（H25 年度）

広報番組インターネット動画配信委託料 159,600 円

番組時間 15 分 定例会終了後 2～3 週間後に放映

番組内容 定例会及び臨時会の議案・議決結果の報告、正副議長・常任委員会正副委員長へのインタビュー、イベントなどの開催報告、市民インタビュー等



さいたま市議場にて



【東京都多摩市】

昭和 46 年以降多摩ニュータウンが形成され、全国から集まった多くの人々が、様々な価値観を共有しながら「新しいまちづくり」が進められてきた。

党派別議員数は、公明党 5 人、日本共産党 5 人、民主党 3 人、自由民主党 3 人等である。男性 15 人、女性 10 人、平均年齢は 54 歳となっている。

広報広聴委員会はなく、議会運営委員会を中心に議会報告会、市議会だよりの編集等がおこなわれている。議員自らが運営し市民と活発に意見交換をすることなど、議会全体で積極的に議会改革を推進している。

[視察事項]

①議会報告会の取り組みについて（告知・運営方法・配布資料・報告内容等）

平成 22 年 11 月から議会報告会を始め、年 2 回（春・秋）の開催を目安とし、全議員参加による議会報告会を開催している。当初は駅前の拠点施設で開催していたが、より市民との距離感を縮め、市民の生活に根ざす地域課題などへの意見、要望や提言を受け止められる場所の必要性から平成 24 年 11 月から地域住民を対象としているコミュニティ施設を会場としている。

参加者数も減少しており、興味を持ってもらえるテーマ等模索しながら取り組んでいる。

開催告知方法も試行錯誤している状況ではあるが、広報や市議会だよりでの告知だけでなく、会場周辺住宅への全議員によるチラシのポスティングも行っている。

運営方法は、議会運営委員長を中心として役割分担を決定するとともに、標準進行表、報告資料、アンケート様式、ポスター、チラシ等の作成を行っている。議長、副議長を除く全議員で、会場ごとの班編成により運営している。議会事務局は運営に関わっていない。

報告内容は、春の報告会は「予算審査」、秋の報告会は「決算審査」の報告としている。

当日はパワーポイントを使用し、審査で論点になった点をピックアップして報告している。

報告会参加者数実績

平成 22 年 11 月	3 会場	1 1 6 名
平成 23 年 11 月	2 会場	1 0 2 名
平成 24 年 4 月	2 会場	6 6 名
11 月	8 会場	9 4 名
平成 25 年 4 月	3 会場	3 5 名



視察の様子

②市議会だよりにおける工夫、改善成果等について（編集方法等）

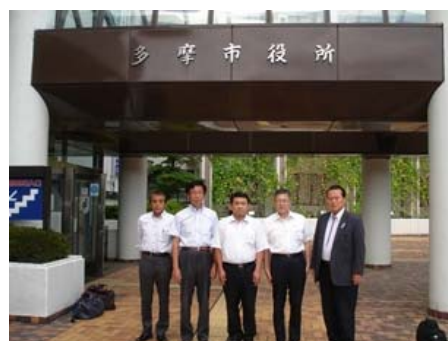
議会運営委員会で編集方針を決定する。原稿は委員会報告については各委員長が作成、一般質問原稿は各議員が作成する。

作業は事務局で案を作るが、議運の委員が当番制で一人責任者となる。

配布方法は、新聞折込により配布。



多摩市議場にて



H25 市議会広報広聴委員会行政視察報告書

視 察 先	埼玉県さいたま市議会・東京都多摩市議会
研修テーマ(調査項目)	議会の広報広聴活動について
<p>① 研修内容に関する評価・意見</p> <p>(さいたま市議会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌編集の基本的構成を議会で決定し、編集を業者委託し、広報委員会に業者が参画している点 ・散策コースのイラストを表紙にしたり、市内著名人による議会視察記事など市民の興味を引く ・議会広報編集委員会は議長が委員長になり、問題意識の共有化を図ると共に、市民と議会の接点として有効に広報機能の活用を図っている。 ・議会広報紙、議会ホームページのほか、テレビ広報やインターネットによる議会中継など、多様な手段を用いて広報の充実を図っていた。 ・議会事務局の体制についても議会広報事業の事務を処理するため、事務局に秘書課広報係が置かれ、体制がしっかり確立している。 ・議会情報の発信については、「広報紙（ロクマル）の発行」、「テレビ広報番組の放映」、「インターネットを使った議会映像の発信」、「詳細な議会情報の提供」を行い、各事業の目的が明確になっていると感じた。 <p>(多摩市議会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算決算審議後、年2回にわたって3箇所以上の場所で議会報告会を行っている点 ・議会報告会の会場周辺の住宅に全議員で報告会実施のチラシをポスティングしたり、駅前で街頭宣伝やチラシ配りをしている点 ・議会報告会のシナリオづくりも議会運営委員会を中心に実施している点 ・議会報告会は年2回（春、秋）全議員参加による報告会を開催している。 ・運営方法は、議運委員長を中心に役割分担を決定し、運営は全議員で会場ごとの班編成により対応。議会事務局は運営には関わらず、会場確保やチラシ印刷等、裏方業務のみである。 ・報告内容は原稿ありきではなく議員生の声で発表 <p>② 本市に反映したい内容と具体例</p> <p>(さいたま市議会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の読みやすい議会だよりの構成の再考 (一般質問など字数を少なく、議会全体の報告としての編集を再考すべき) ・議会だよりに一般質問のやり取りと、議員の顔写真でさえ全く無い点 (一般質問が議員個人の宣伝の場ではないとの理由で、議員間協議に於いて、議員の顔写真を除されたこと) ・「クローズアップ」とか「KEYWORD」とかは、当市の市議会だよりでも取り上げられるかもしれない。 ・市がインターネット市民意識調査を実施し、そこに市議会だよりをどれくらい読んでいるかの調査項目をのせて定期的に調査している点などは、市の規模に依らず本市でも実施可能ではないか。 <p>(多摩市議会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全議員による議会報告会のチラシ配りやポスティング等の試行 ・議会報告会シナリオのパワーポイント利用 ・議会報告会の中身は決めず、議員が生の声で発言している点 ・市議会だよりの一般質問に於いて、議員と執行部のやり取りについて、議会だよりに議員の顔写真がないこと 	